

鹿児島支部では、令和5年8月26日に令和元年度以来の総会を開催しました。会員26名が出席し、工業会本部からは山尾会長が来賓として参加されました。

会の冒頭に、数年の間に亡くなられた同窓の方々に対し、黙祷を捧げ、ご冥福をお祈りしました。

開会の挨拶では、樗木秀人支部長（S56 土木）が4年ぶりに開催ができたこと。また、多くの参加者があったことに、感謝の言葉がありました。また、令和5年6月上旬に開催された工業会本部での総会及び懇親会の感想や、学生時代の思い出話などがありました。

次に、山尾会長より世界的半導体企業（TSMC）の参入による影響や工学部の学科組織の近況ほか、熊本地震から復興中の熊本城の現状や、豪雨災害で被災した通潤橋について、復旧の機会を利用して初めて石樋の内部状況が確認できたなどの講話がありました。（私が在籍していたころの学科構成の変化や改めて熊本地震の被害の大きさなどを感じたところです。通潤橋の国宝指定、おめでとうございます。）

その後、令和4年度事業報告及び令和5年度事業計画等の議案の審議がありました。議案は可決となりましたが、会員からは「総会への出席者が県職員関係（OB、現役）に偏って少ない」など意見があり、総会に参加していない会員への参加への呼びかけや、開催時期の検討が必要との意見もありました。

山尾会長に他支部の動向を確認したところ、他支部でも会員の減など同様な悩みを抱えているとのことで、この記事をご覧になっている方で、成功例があればご教示をお願いします。

議案審議の後は、薩摩川内市副市長の福元一也氏（S58 土木）から「薩摩川内市のまちづくりについて」というテーマで会員による特別講演がありました。地勢や人口等の基礎的な情報のほか、九州電力の発電施設があるエネルギーの街としての取組や半導体関連企業の工場増設による工業団地の整備状況。また、そのアクセス道の計画など、現在のまちづくり状況の紹介とふるさと納税の募集案内がありました。（私はさっそく、ふるさと納税をしました。）

総会は、会場の借上げ時間をオーバーするほど盛り上がり、その余韻のまま懇親会へと移りました。

懇親会からは、現在、鹿児島に赴任中の廣松洋一氏（S62 土木）も加わり、旧友との再会に感激されておりました。また、各会員から近況報告等があり、最後は椎原賢次氏（S63 土木）による冠頭言の披露と平原浩之氏（S61 院土木）の一本締めにより散会となりました。

来年度の総会は、本年度の出席者より多くなることを祈念し、筆を置かせていただきます。



中央は樗木支部長

